

令和4年度 重点研究の総合評価（中間・事後）

■重点研究 中間評価（継続）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果					総合評価	
		研究の 進捗	目標 達成 見込	活用 の可 能性	評 価	意見	評価	意見
北海道の気候に適した牛舎の機械換気システムの開発								
○酪農試験場、 北方建築研究所 (R3-R5)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> モデル牛舎の実証ではシミュレーションモデルの適用妥当性や汎用性を十分に検証し、今後の研究を進めること 換気による牛舎内の温度分布、風速、および湿度の管理と乳量低減抑制効果との関係性をより明確にすること 	B	<ul style="list-style-type: none"> モデル牛舎の実証ではシミュレーションモデルの適用妥当性や汎用性を十分に検証し、今後の研究を進めること 換気による牛舎内の温度分布、風速、および湿度の管理と乳量低減抑制効果との関係性をより明確にすること 	
北海道加工にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系の確立								
○花・野菜技術センター、 十勝農業試験場 (R2-R5)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できるよう現地実証試験を着実に進めること 実需者ニーズを的確にとらえ、ニーズにあった栽培・出荷体系を確立すること 	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できるよう現地実証試験を着実に進めること 実需者ニーズを的確にとらえ、ニーズにあった栽培・出荷体系を確立すること 	
気象データを活用したバレイシヨ疫病の初発前薬剤散布指示システムの開発								
○道南農業試験場 (R3-R5)	a	b	a	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報インフラと農業との融合を目指した研究であり、他の作物への展開も期待できる。 引き続き予測精度の高いアルゴリズム開発に努め、できるだけ多くの地域で適用できるシステムを構築すること 	A	引き続き予測精度の高いアルゴリズム開発を進め、できるだけ多くの地域で適用できるシステムを構築すること	
貝類の循環濾過蓄養システムの開発								
○網走水産試験場 中央水産試験場、 林産試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	選定した濾過材、および試作装置の性能評価、貝類の官能評価を実施し、成果が確実に実用化されるよう進めること	B	選定した濾過材、および試作装置の性能評価、貝類の試食による味やにおいの評価を実施し、成果が確実に実用化されるよう進めること	
北海道産農産物を活用したロングライフチルド食品の製造技術開発								
○食品加工研究センター、 中央農業試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	道産品としての特色を十分に活かせるよう素材の最適な処理方法がより明確になるよう研究を進めるとともに、その成果が北海道産農産物を活用したカレー以外のロングライフチルド食品開発への展開につながるよう検討すること	B	道産品としての特色を十分に活かせるよう素材の最適な処理方法がより明確になるよう研究を進めるとともに、その成果が北海道産農産物を活用したカレー以外のロングライフチルド食品開発への展開につながるよう検討すること	

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	評価	意見
製材からプレカットまでを行う垂直統合型・垂直連携型事業体の成立条件の解明							
○林産試験場、 林業試験場 (R3-R5)	b	b	a	A	事業体側のニーズや受容性を把握し、当初の目標が確実に達成されるよう、川上から川下までの垂直統合型・連携型事業体の成立条件や、産業・行政を含めた連携に関する成立条件を明らかにすること	A	事業体側のニーズや受容性を把握し、当初の目標が確実に達成されるよう、川上から川下までの垂直統合型・連携型事業体の成立条件を産業・行政との連携を含め、明らかにすること
IoT 金型と加工状態推定・補正技術による高品質板金加工システムの開発							
○工業試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	加工状態推定技術の開発については計画に基づき着実に進め、市場の需要を把握し道内企業への技術移転もふまえて検討を進めること	B	加工状態推定技術の開発については計画に基づき着実に進め、市場の需要を把握し道内企業への技術移転もふまえて検討を進めること
水資源開発・管理のための支援システム「水資源 Navi (地域別)」の開発							
○エネルギー・環境 ・地質研究所、 北方建築研究所、 林業試験場 (R2-R5)	b	b	b	B	水利用の用途を明確にし、成果がモデル地区以外にも導入・活用されるよう、資源量の推定精度や飲用利用に関する情報（原虫や農業由来の化学物質）、それら水質特性の将来変化をふまえたシステムの維持体制、水利権との関係など、必要となる検討を積極的に進めること	B	水利用の用途を明確にし、成果がモデル地区以外にも導入・活用されるよう、資源量の推定精度や飲用利用に関する情報（原虫や農業由来の化学物質等）、それら水質特性の将来変化をふまえたシステムの維持体制、水利権との関係など、必要となる検討を積極的に進めること

■重点研究 事後評価（R3年度終了）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評 価	意見	評価
新規ウイルス検査法を導入した道産にんにくのウイルスフリー種苗管理技術							
○花・野菜技術センター、 上川農業試験場 (R1-R3)	a	a	a	A	検査キットの開発や防虫ネット被覆によるウイルス感染回避を確認した。検査キットを活用した合理的な種苗管理技術を開発し普及に努めること	A	検査キットを活用した合理的な種苗管理技術を開発し普及を進めること
道産地鶏の販売拡大を目指した北海地鶏Ⅲの生産性向上と商品価値の明確化							
○畜産試験場、 食品加工研究センター (R1-R3)	a	a	b	A	北海地鶏Ⅲの肉質特性を明らかにし、生産者・実需者・消費者向けの資料を作成した。さらなる生産性向上を図りながら北海地鶏のブランドの普及に努めること。	A	さらなる生産性向上を図りながら北海地鶏のブランドの普及を進めること
海岸流木処理対策の効率化・迅速化のための漂着量把握技術の開発							
○エネルギー・環境・ 地質研究所、 林業試験場 (R1-R3)	a	b	b	B	新たな海岸流木漂着量把握手法や処理優先区域選定手法を開発した。基礎となるデータの収集を継続し、本技術の推定精度の実証的検討を重ね、他地域での展開も可能となるようさらに検討を進めること	B	基礎となるデータの収集を継続し、本技術の推定精度の実証的検討を重ね、他地域での展開も可能となるようさらに検討を進めること
北海道想定地震に対応した住宅等の復旧・耐震改修技術の開発							
○建築性能試験センター、 北方建築総合研究所 (R1-R3)	a	a	a	A	低廉で工期が短い地震被害からの耐震改修技術を開発した。開発した工法の優位性を提示しながら施工業者や一般向けに積極的な普及に努めること	A	開発した工法の優位性を提示しながら施工業者や一般向けに積極的な普及を進めること